

☆ たんぼほのちえ をとらえよう ①

○ 文しようを よんで こたえよう。

(1) たんぼほの ちえが かかっている

とじろを かきぬきまじよう。

二、三回たじい、

その 花は しぼんで、

だんだん 黒っぽい

色に かわって いきます。

そうして、たんぼほの 花のじくは、

ぐったりと じめんに たおれて しまいます。

けれども、たんぼほは、かれて しまったので

は ありません。花と じくを

しずかに 休ませて、たねに、たくさん

えいようを おくって いるのです。

こうして、たんぼほは、たねを どんどん

太らせるのです。

(2) どんなわけが ありますか

なぜなら

花と じくを しずかに

休ませて、たねに、たくさん

えいようを おくっているのです。



☆ たんぽぽのちえ をとらえよう ②

○ 文しようをよんでこたえよう。

(3) たんぽぽのちえがかかっている

とじろをかきぬきましょう。

花は すっかり

ちがて、花は すっかり かれて、その

あとに、白い わた毛が できて きます。

かれて、そのあとに、白

いの わた毛の ーしーは、ひながるじ、

ちようど ぶつかさんのやうに なります。

わた毛が できて きます。

たんぽぽは、この わた毛に ついて

たねを、ふわふわと とばすのです。

(4) どんなわけが ありますか

なぜなら たんぽぽは、このわた毛に

ついて いる たねを、 ふわふわと

とばすのです。



☆ たんぼほのちえをとらえよう ③

○ 文しょうをよんで、ことえよう。

この「しょう」なるを、それまで たおれて  
いた 花の じくが、また おき上がります。  
そうして、せのびを  
するまじい、  
ぐんぐん のびん  
いきます。  
なぜ、こんな ことを するのですしょう。それ  
は、せいを 高く する ほうが、わた毛に  
風が よくあたって、たねを とおくまじで  
とばす ことが出来るからしょう。



(5) たんぼほの ちえが かかっている

ところを かきぬきまじよう。

たおれていた 花の じくが、

また、おき上がります。

そうして、 せのびを するまじい、

ぐんぐん のびて いきます。

(6) どんなわけが ありますか

なぜなら せいを 高く する ほうが、

わた毛に 風が よく あたって、

たねを とおくまじで とばす ことが

できないからです。



☆ たんぽほのちえをとらえよう ④

○ 文しょうをよんでこたえよう。

よく晴れて、風のある日には、わた毛の  
らっかさんは、うっぱうひらうひ  
うおくまべととたべとぎます。  
でも、しめり気の多い日や、雨ふりの  
雨ふりの日には、わた毛のらっかさんは、  
すほんでしまいます。  
それは、わた毛がしめって、おもへな  
たねをとおくまべとばすことができない  
からです。

(7) たんぽほのちえがかかっている

とじろをかきぬきしょう。

よく晴れて、風のある日には、
わた毛のらっかさんは、うっぱうひらうひ
うおくまべととたべとぎます。
でも、しめり気の多い日や、雨ふりの
日には、わた毛のらっかさんは、
すほんでしまいます。

(8) どんなわけがありますか

なぜなら わた毛が しめって おもへ
なると、たねを とおくまべ とばす
ことが できないからです

